

システム監査技術者 解答例

【午 後 I】

問 1 (配点 50 点)

設問 1 (10 点)

各業務で必要な処理能力やデータ量に基づくシステム資源の検討

設問 2 (10 点)

ウイルス対策ソフトによる VDI サーバの負荷が高まり、PC の応答悪化が生じる懸念があるから

設問 3 (10 点)

負荷が掛かるシステム資源の使用状況を常に監視し、パフォーマンス悪化や障害に備える。

設問 4 (20 点:(1)10 点, (2)10 点)

- (1) 全 PC に対応する仮想マシンを稼働できる台数の VDI サーバを、東京本社と大阪支社それぞれに用意する。
- (2) 自社ですべてのバックアップサーバを用意するのではなく、外部のデータセンタの利用を検討する。

問 2 (配点 50 点)

設問 1 (10 点)

a : B 社通販課員は、P 社から返送された受領書に対応するデータ依頼書の写しがあることを確認しているか。

設問 2 (8 点)

b : マスク処理結果票

設問 3 (12 点:6 点×2)

- ① 業務体制図に記載されたすべての担当者の教育実施記録があるか。
- ② すべての担当者が着任時に情報セキュリティ教育を受けているか。

設問 4 (10 点)

12 月提出時の添付資料では、その後交代した保守業務担当者への教育実施状況を確認できないから

設問 5 (10 点)

業務の再委託先についても、契約締結時及び年 1 回情報セキュリティ確認書を B 社に提出させることを定める。
(別解) 業務委託先が再委託先を変更する場合には、再委託先の情報セキュリティ確認書を速やかに B 社に提出させる。

問 3 (配点 50 点)

設問 1 (10 点)

各事業本部及び各子会社が、それぞれの特性に応じた独自の分析を行うことができているかどうか。

設問 2 (10 点)

子会社の事業状況の把握が遅れたり、情報不足で正確に把握できず、経営者が経営判断を誤るリスク

設問 3 (10 点)

調査報告書は開発当事者であるプロジェクトリーダーが作成したものであり、監査証拠としての信頼性が低い。

設問 4 (20 点:10 点×2)

- ① 月次報告の具体的な報告内容が決められ、全子会社に正確に周知しているか。
- ② 報告に必要な分析内容とその作業期間を、全子会社に正確に周知しているか。
(別解) ・分析作業に着手できる情報と十分な作業期間が全子会社に与えられているか。
・経営情報システムの意義と使用方法についての研修を全子会社に行っているか。

以上